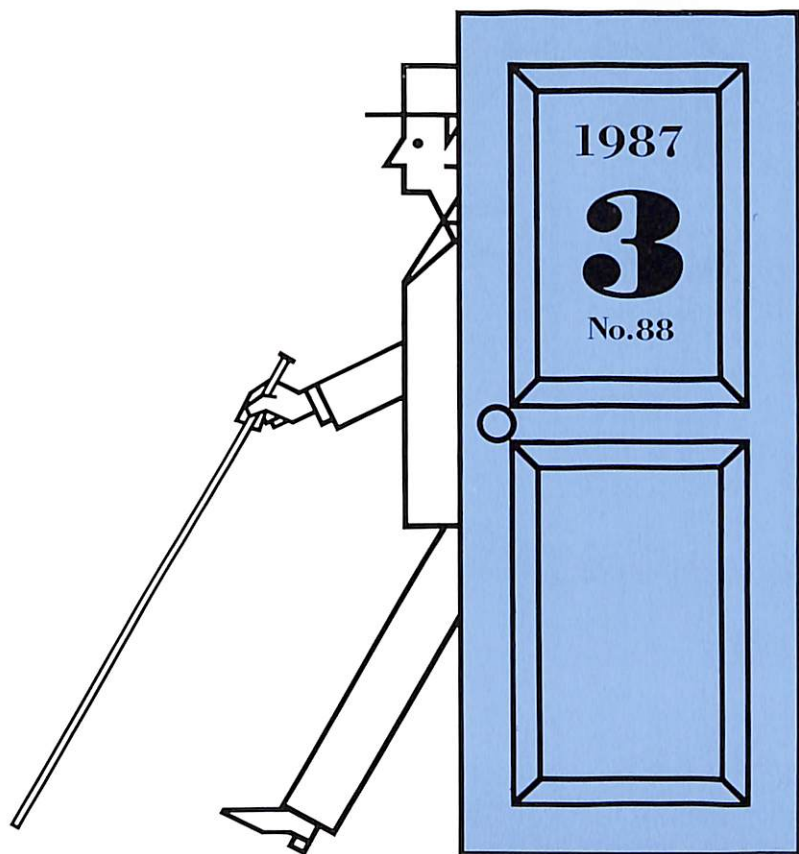


視覚 障害

その研究と情報

特集＊点字情報処理最前線



ISSN 0385-7476

SSK

改訂最新版

初版以来700万部突破——信頼にこたえてさらに内容充実

岩波 国語辞典 第四版

西尾 実・岩淵悦太郎・水谷静夫編

ことばの意味・用法を、その最も基本的なところでとらえて、懇切に説明することを第一の眼目とする現代語辞典。学校で、職場で、家庭で、初版以来七〇〇万を超える人々に愛用されてきたが、このたび、近來の言語生活の変動に即して、既収項目の改修と新項目九〇〇の増補を行い、新「現代仮名遣い」(昨年七月一日内閣告示)を完全に反映させました。

B6新判特製ビニール装・上製函入・二二八頁 定価一八〇〇円
■完成記念特別定価一七〇〇円(期限〓4月30日迄)

特色

▼見出し語数六万、現代生活に欠かせぬ語を厳選 ▼一字一語の基本的な意味を明らかにする ▼語の用い方やニュアンスがよくわかる行き届いた解説と適切な用例 ▼基礎語は特にくわしく解説 ▼主要な漢字二三〇〇余について、漢語を構成する単位としての漢字の働きを説く ▼読めない語も引けるよう「漢字の読み方の手引」を付す ▼鮮明な印刷、丁寧な造本

デスク版(A5判)同時発売……………定価二八〇〇円
大きな文字で一段と読みやすく、しかも使いやすい判型・造本

■「内容見本」進呈

広辞苑 第三版 新村 出編

項目数二〇万余。現代語・古語、人名・地名から百科・専門語まであらゆる分野のことばを収め、さらに日常生活に欠かせぬ情報を盛り込んだ新版。豊富な内容、正確な記述、使いやすさには定評がある。総装・天金の豪華本を新たに発売。菊判・二六八頁 定価五八〇〇円 〈机上版〉B5判・定価一〇、〇〇〇円 〈総装・菊判・定価九六〇〇円

岩波書店



東京都千代田区一ツ橋 2-5-5
振替番号 東京6-26240 千101

目 次

1987年 3月 No.88

2 ページ評論	木塚 泰弘	2
---------	-------	---

特集 点字情報処理最前線

視覚障害者用パソコン支援システム	末田 統	5
AOKワープロ98-V1 開発の経緯と機能の概要		
	北川 紀幸	20
点字入出力機器の現状	平塚 尚一	31
バーサブレイルについて	小田 浩一	40

この人と語る

コンピュータでも点字は主役	長岡 英司・石川 准	51
---------------	------------	----

視覚情報処理技術年報(1986年)		66
-------------------	--	----

ボランティア 西・東

一緒に行こう、アカンパニー・グループ		77
--------------------	--	----

編集後記		81
------	--	----



開発者とユーザーによる賢い選択

国立特殊教育総合研究所研究室長 木塚 泰弘

最近あちこちで、「すてきなワープロを買ってやっと慣れたと思ったらもっと使いやすそうなのが出て悔しい」などという話をよく聞く。各社が開発を競っているため、特定の機能と価格にこだわると、半年もたたないうちに新しい機種に先を越されてしまうすさまじさである。ところが、比較的安定したパソコンと優れたワープロソフトを買えば、比較的長続きするし、ソフトだけ取り替えれば、常に最新の機能を安価に入手できる。最初の機器を購入するときは多少高くつくが、ワープロ以外の様々な用途に使えるから、一つ一つ使用範囲を広げていけば、決して高いものとは言えなくなるのである。

視覚障害者の世界でも、ようやくユーザーによる選択が可能な段階になってきた。そこで、ユーザーによる賢い選択の観点と、それに応える開発者の基本設計の概念が問われるときがきた。

「盲人用…」と銘打って特定の機能を持つ機器を開発すると、たとえそれがどんなに使いやすくてもむやみに高いものにつく。しかも、一般のパソコンやソフトの開発に振り回されて、絶えず後追いを繰り返さなければならない。そこで、一般用と共通性のあるものは、極力それを利用し、視覚障害者にだけ独自に必要なものを開発し、それらを組み合わせて使用するシステムが期待されているのである。つまり、点字や音声あるいは触図などを用いて、視覚障害者がパソコンを操作するのに必要な部分だけを独自に開発し、パソコンやアプリケーション・ソフトは、一般用のものをそのまま使えることが最も望まれている。

「共通性」と独自性とを見極めたうえで、それらを総合的に位置づけるという考え方は、単に、機器の開発や選択にだけ必要なのではない。文字や音声あるいは図形などのデータを、どのような形で蓄えたり、やり取りしたりすればよいかという問題においても、必要とされる考え方である。各自が好きな形で入力したデータを、すべて「共通コード」に変換して蓄え、必要に

応じて好きな形に変換して出力するという考え方が、もっと真剣に採り上げられなければならない。このような考え方を、数年前から主張しても受け入れられなかった私は、昨年の夏東京で開かれた国際図書館会議の盲人専門家会議で、イギリスのギル（Gill）さんの提案の中に、「共通性」を見出して喜んだものである。

日本語の場合、漢字を含んだコードである J I S C 6226 を「共通コード」とすれば、今後増加する一般の電子化されたデータを、大量に活用できるという点からも有利である。つまり、辞典類や新聞・雑誌、あるいは一般の書籍など、データベースや電子出版の形で提供される大量のデータが、そのまま活用できる道が開かれることになるのである。また、八点漢字体系や六点漢字体系の点字はもとよりのこと、普通に用いられているかな文字体系の点字で入力したものも、かな文字やローマ字で入力したものと同じように、「共通コード」に変換して蓄えておくことが有利である。将来は音声で入力されたものも、「共通コード」に変換できるようになるであろう。

一方、ユーザーがこれらのデータを読みたい場合には、必要と好みに応じて、墨字や点字あるいは音声はもとよりのこと、弱視の拡大文字や触読できる字形として出力することも可能である。ただ、現在の段階では、分かち書きされたかな文字体系の点字に正確に変換することにやや問題がある。また、数学記号や理科記号などの場合も含めて、J I S C 6226 コードにすべてを変換することができないから、「共通コード」の補助として、点字の字形をそのまま蓄えておくことも必要とされる。

更に、合成音声では快適に聞けないので、音声をそのままデジタル化して蓄えておくことも必要である。また、図形や映像もそのまま蓄えられているものを、触図の形に変換する方法も開発されている。そこで、将来の点字図書館などでは外部記憶媒体として、「共通コード」と補助的な点字の字形のコード、デジタル音声や図形などを一緒に蓄えられ、すぐに検索できるものを選ばれる必要がある。その意味で、最近騒がれている D A T よりも、C D - R O M 系の媒体が適当ではないかと思われる。いずれにしても、十分検討し、先を見通して後悔のないようにすることが必要である。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

編集後記

ここ1・2年、点字情報処理に関するハード面およびソフト面の開発にはめざましいものがあります。価格とはともかく、実用価値の充分ある機器やプログラムがどんどんできています。目が見えないのだから、点字なのだから少しはがまんしなければ、という状況が、ものすごく早いテンポで改善されつつあります。技術の進歩と関係者の努力には頭のさがる思いです。今回の特集をじっくり読んでいただくと、それがよくお分かりになるのではないのでしょうか。

それについても、こうしたものを生かすのも殺すのも、私たち視覚障害者の肩にかかっています。仕事においても、趣味においても、こうしたものを活用できる資質を持った視覚障害者の養成が急務です。盲学校や中途失明者のリハビリテーション・センターなどの対応がどうなるのか、たいへん気がかりな点です。

本号は、末田先生をはじめ、力作をお寄せいただいた方が多く、大幅に規定ページを越えてしまいました。やむを得ず、谷合侑先生の「近代の盲人像(5)」と「インフォメーション・コーナー」を次号に回すことになりました。あしからず御了承ください。

(田中徹二)

視 覚 障 害 1987年3月 No88
年間購読料 3,000円(送料とも)
発行日 1987年3月1日
編集人 (連絡先)

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会

〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目
23番4号 日本点字図書館内

電話 (03) 200-1130

振替口座 東京 6-16103

発行人 身体障害者団体定期刊行物協会

〒157 東京都世田谷区砧6-26-21

印刷所 合同印刷株式会社

〒130 東京都墨田区業平2-9-13
電 話 (624) 6111 (代表)

協賛団体 日本点字図書館